

シリーズ 「パチスロの新時代を創る」

次世代を切り開く責任

第1号：2段階設定の秘密

昨年7月の法改正後1年4ヶ月を経てパチスロ業界はやっと5号機の話題が出始めてきました。9月下旬に発売された「エヴァンゲリオン」の高稼働は5号機の新時代に朗報ともいえるニュースですが残念ながらコイン単価や粗利の面で一部のホール様の期待した水準には届いていないと理解しています。5号機はコイン単価2円以下、大当たり獲得枚数350枚前後、大当たり確率1/450、還元(ベース)63~68%といった特性が限界で、スペックに期待が持てないという印象を与えることにもなりました。一部の業界誌様や店舗様では、5号機はコイン単価が低く、売上が上がらないといった不安の声も囁かれています。

今回の新規則はスタンダードなA型機と言われるものを目指していましたが、規則そのものより保通協での試験が大きく影響力を持ちました。パチスロの魅力である確率の偶然性による「暴れ」が試験により限定された範囲でしか認められなくなったことにより、メーカー各社はより厳しくなった出玉試験への対応が必要になったのです。

保通協の出玉試験には「短時間」「中時間」「長時間」の3種類があります。短時間試験とは400ゲームで出玉率300%未満、中時間試験とは6,000ゲームで出玉率試験に加えて連続役物比率60%以下の条件、長時間試験とは17,500ゲームで出玉率120%未満という条件です。

上記4種類の試験は「実射試験とシミュレーション試験」の2種類があり「設定別」「通常時とボーナス時でそれぞれ可能な掛け枚数別」に行われます。つまり最大では4試験×実射とシミュレーションの2種類×設定数(6段階なら6)×掛け枚数3種類×掛け枚数3種類の432回の試験となります。

短時間試験での出玉率300%未満の試験条件をクリアする為の基本としては短時間の暴れはすぐに起こるものであることから、ボーナス中に3枚投入に対して9枚の払出しを行うという、300%は絶対に超えない手法です。今回の規則ではボーナスゲームの払出し465枚から払出しに使用したメダルを差引いた差が純増の払出枚数となります。400ゲームで300%未満の条件で確率の暴れで連荘した場合でも、3枚投入で9枚の払出しを超えないので300%を超えない為に適合が確保できますが、ボーナスゲームの払出しを獲得する為に3枚を投入する事になり、純増では少ない360枚程度となります。これはどのメーカーでも300%を超えない対応策として共通した考え方にならざるを得ないと思われま

今回の検査で最大の課題と言えるのが 6000 ゲームでの連続役物比率 60%以下の条件です。この条件下では殆どのメーカーが連続役物比率、いわゆる全てのビッグボーナスの出玉を 60%以下に抑え、確率の暴れ（役物比率）を抑えた 60%以下になる枠をもって設計をすることで、役物比率を低めにして試験を受けることとなります。そのために役物比率を調整することが特性の有利か、不利かを決定することとなります。

当社はパチスロ本来の醍醐味は確率の暴れ（役物比率）にあると考えます。連続役物比率の魅力を生かし、役物比率を 60%ぎりぎりまで保ち還元率を抑える規則に沿った工夫を一切の妥協を廃して追求して参りました。パチスロの醍醐味は確率の暴れにあります。あえて設定を 2 段階とすることで試験回数を 1/3 に削減し、暴れによる不合格率を下げることでした。これにより従来の 6 段階設定の機械よりも役物比率を上げる工夫が出来たのです。

その結果として 1 機種あたり 432 回にも渡る試射試験を徹底的に削減することができ、役物比率を上げた魅力ある特性での試射試験に適合した A 型標準機、パチスロ「サクラ大戦」を完成させたのです。大当たり平均獲得枚数で 370 枚と 275 枚の 2 種類のボーナスを搭載し、確率 1/334 でありながら、還元が低く連続役物（大当たりの払出し）を追求した開発に成功しました。ストック機には無い A 型標準機特有の出玉特性と安心感を実現し、また現在噂されているコイン単価 1 円 50 銭程度という 5 号機の不安要素を一掃し、シミュレーション値で 2.7 円*のコイン単価の実現を可能しています。

*約 2 時間遊技を前提として計算されています。

更に機種の多様化の為に、パチスロ「デビルマン」では BIG ボーナス払い出し後に高確率リプレイ（パチンコで言う時短機能）を 100 ゲームつなげました。この 100 ゲーム中にもメダル枚数の増加が持てる付加機能を搭載したことで、平均純増 70 枚～80 枚（合計約 380 枚）を獲得することができる従来の A 型標準機とは異なる新しい魅力の機械の開発にも成功いたしました。更に小役とボーナスの「同時抽選」により小役の入賞時にボーナスが入賞している可能性が作れた為に、プレイヤーの期待感を高め遊技を継続する新システムも採用しております。

当社では保通協持込み試験に対しても、出玉特性の魅力を超えて限界まで追求し 30 機種の保通協試験の不合格のなかで、他社と比較にならない程の最大限の努力をもって、検定試験に挑戦いたしました。だからこそ解ったことがあるのです。少なくとも他社の 3 倍の適合の可能性を追求し、連続役物比率が 60%ギリギリの出玉設計を追求してきました。

今後も最大のキーとなる試験は、設定のすべてに対して 6000 ゲームで連続役物比率 60%以下と言う条件です。これを通過できるかどうか試験での最大のポイントとなります。通常のメーカーでは、還元率 65%位から 60%台をどう獲得出来るかが試験での適合を狙う競争です。当社の挑戦は如何に還元率を 55%に近づけられるかであります。5号機においては還元率が各メーカーの特性比較論議となることは明白です。

当社が発案した2段階方式はパチスロの出玉の魅力を確保するためには最高の手法であり各メーカーはこの方式を来年度には採用することは間違いありません。どのメーカーでも特性の魅力を追求するならば2段階設定方式を採用しない限り実現は不可能であり、当社との競争を行うならばこの2段階設定もしくは3段階設定の方式を採用する以外にはなく、今後は業界標準になります。今からこの方式で保通協に持込むメーカーは開発と試験の期間を考慮すると来年以降の発売となってしまいます。もしくは6段階設定のまま試験を受けてその結果は役物比率で特性の劣る機械を発売することになります。

また 6000 ゲームでの役物比率 60%以下の条件は、結果的には出玉率において最大 103%前後と言う現象を生みます。設定 6段階方式と出玉を比較した場合には、6段階方式ですと出玉率 103%の役物比率は変更できない為、設計を還元である小当たりを増加させて 120%程度までは出玉率のみは可能となりますが、還元となる小当たりを増加させての6段階設定は意味がありません。今後、機械の良し悪しを見抜く方法は、自社他社を問わず、6段階の出玉の設定とことだけでなくパチスロのスペックとして 103%前後の出玉率のなかで役物比率がどう設計されているかで判断すべきと断言できます。

(次回は新規則で可能になった 5号機の新機能と魅力を紹介します。)